

コラム



2010-06発行 明照幼稚園

こんにちは。園長の佐藤良文（さとうりょうぶん）です。これから、たんぽぽぐみ・未就園児のお母様方に向けて、自分が経験してきたことや考えてた事をお伝えしようと思います。どうぞお付き合い下さい。

まずは、冗長ながら自己紹介を。

私は現在、小学5年生を筆頭に3人の子どもがおります。末の子どもだいぶ手を離れて来ているのですが、坊さん&園長という仕事柄、子どもと接する時間は、会社勤めのお父さん方より比較的長いのではないかと、いう気がします。父親と園長という両方の視線をもって、子ども達を見ていこうと考えております。

さて、第1回という事ですが、「**お父さんの役割**」について述べたいと思います。10年位前でしたか、「お父さんもお母さんと同じように子育てを」というキャンペーンがありました。丁度我が長女も赤ちゃんだった頃だと思います。もちろん、「オムツがえもできる」「ミルクも適温に温められる」お父さんというのは、それはそれで良いことだとは思いますが。しかし私からは、それが「お父さん=子育てする父親」の本質だとは思えないのです。**性別の違う2人が出会って子どもが生まれる訳ですから、子どもへの眼差しも関わりも、それぞれ独特であって当然だと思います。**

では、「お父さん目線」とは何でしょうか。私的には「長いスパンで子どもを社会化していく」という事だと思います。対比して言うと、「**守り育むのがお母さん、連れ出し導くのがお父さん**」という感じでしょうか。

しかし、この「冒険の水先案内人」的お父さんの出番は、幼稚園児にはまだ時期尚早のきらいもあるあるようです（小学校低学年からは、一転して重要になるそうです）。子ども達が自らの居場所を確保し、ある程度「自分のことは自分で」という身辺自立ができて「好奇心のサイクルができあがってから」のような気がします。**ある程度の挑戦と成功体験を重ねた後でこそ、父親の本当の出番が来るようです。**

では、お父さんの出番は今はないのか、と言ったらそんなことはありません。**お母さんの手伝いをする。お母さんをいたわる。悩みや愚痴を受け止める**（回答や反論は必要ありません。勿論してもいいのですが）。これは私の経験から言っても、「間接的に子どもを育てる」とても大切な面だと思います。**直接子どもと会う時間は短くとも、お母さんの状態を良くキープするのは、子どもへの愛情でもあり「お父さん」の大切な役目であると思います。**愛情の反対は無関心と言われますが「任せた。俺は知らん」とはかなり離れ

た境地と言えるでしょう。この時期、子どもと接している時間はお母さんの方が何倍にもなります。その「**前線に立っている**」お母さんをしっかり支えるのは、お父さんの役割でしょう。



また、「水先案内人」として、子ども達に予行練習をさせることもできます。それは絵本や物語です。学者さんの研究でも、「ほのぼの系」ではなく「どきどき系」の物語は、父親が聞かせた方が子ども達の集中力・関心をキープするとの結果が出ています。**実地体験ではないけれど、「ドキドキ」と安心を疑似体験させておく。**その下地があつてこそ、子ども達は将来、広い社会に、世界に羽ばたいていけるのだらうと思います。

今回のまとめです。

1. お父さんの関わりの本質は、お母さんの替わりではない。
2. お父さんとお母さんは、子どもと接している時間が圧倒的に違う。
3. 幼稚園の時期は、前線にいるお母さんの「後方支援」をする。
4. 身の回りの事より、将来の冒険や挑戦の予行練習を心がける。

勿論、今回のお話は「両親が揃って子育てする」という前提に立っています。しかし「そうでないからダメ」でもないのです。幼稚園でも担任はクラスに1名。意識的に両方の役目をしていきます。そう考えると、母親・父親というのは**子育ての2つの視点**であるとも言えるでしょう。両方の目で見えてゆくことで、より奥行きのある子育てができるのではないかと思います。「**親になってよかった**」、**そんな思いを皆さんが抱けますように。**

メルマガ始めました！

子育ての情報や私が経験から学んだこと、幼稚園の行事など、様々発信していきます。よかったら右のQRコードまたは、meisho@mamail.jpに空メールをお送り下さい。



明照幼稚園 URL <http://www.meisho.ac.jp>
園長直通 infoアットmeisho.ac.jp
メール作成時には「アット」を記号に変更してください。